

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学 校 名 さいたま市立大宮八幡中学校
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}
☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
所在地 〒337-0041 さいたま市見沼区南中丸 3 5 7
E-mail omiyayahata-j@saitama-city.ed.jp
Website さいたま市立大宮八幡中学校
幼児児童生徒数 男子 1 7 6 名 女子 1 4 0 名 合計 3 1 6 名
幼児・児童・生徒の年齢 1 2 歳～1 5 歳
※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月～平成 3 0 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は、人口約 1 2 0 万人を超える政令指定都市にある全校 325 人の小規模校である。学校教育目標は、「心豊かで たくましい 広い世界に生きる人間の育成」 ～好奇心こそすべての始まり～ である。本校は、JRC 加盟校として長い歴史があり、人権教育の推進にも力を注いでいる。また、環境教育の視点で学校ファームの活動にも力を入れている。国際理解・多文化共生の視点で、学校外の講師を招聘するなどの活動も取り入れている。その他、地域行事への参加や連携を図った活動を行っている。

そこで、これらの活動を ESD (持続可能な開発のための教育) の観点からまとめることで、地域との絆を一層深めるとともに、地球規模の課題を認識し、中学生として今何をしなければならないのかを知り、考え、行動することのできる生徒の育成を目指している。具体的には、「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと」や「他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、『関わり』や『つながり』を尊重できる個人を育むこと」をねらいとしている。

①「国際理解・多文化共生プロジェクト」

学区内に店舗のある「ユニクロ」の社会貢献活動「服のチカラプロジェクト」(着られなくなった子ども服などを集め、難民キャンプに届ける活動) への参加協力を続けている。子ども服の提供を全校に呼びかけるだけでなく、地域の社会教育施設や近隣の小中学校への協力依頼、地域行事に参加する際などを活用した回収活動を続けている。毎年 3 0 0 0 着程度の子ども服を集めている。

②「留学生が先生」プログラムを活用した国際理解教育（３年）

国際理解支援協会の「留学生が先生」プログラムを活用した授業を３年生で実施している。平成２７年度は、ブラジル・スリランカ・イラン。２８年度は、ドイツ・ロシア・キルギス留学生が来校した。今年度は、韓国・ハンガリー・ブルガリアの留学生が来校し、授業と国際交流を行った。事前学習として歴史、言語、地理、環境、食物、日本とのかかわりについて調べ、留学生の前で発表し掲示している。

③八幡ファーム 育てた作物の給食への活用（フードマイレージの意識醸成）

環境委員会や自然科学部の生徒を中心に、校内にある「八幡ファーム」で野菜を育て収穫している。八幡ファームでは、じゃがいもや大根、トマト、きゅうり、長ネギ、なす、ピーマン、ズッキーニなど、年間を通して様々な野菜を栽培・収穫している。収穫した野菜は学校給食に提供している。地産地消やフードマイレージの意識醸成にも役立つ活動となっている。

④ディレクトフォース（企業退職者の社会貢献団体）を招いての環境教育（１年）

「ディレクトフォース」から講師を招き、世界が抱える環境問題などについて、講師自身が実践してきたことを中心に授業を実施している。授業を行う際には、事前学習を行い、生徒が調べた内容をもとに壁新聞を作成している。リサイクルや環境破壊など身近な問題をわかりやすく説明してもらい、これから何をすべきか考えるきっかけとなっている。

③ 服のチカラプロジェクト



②留学生が先生



③八幡ファーム



④ディレクトフォース



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(学校行事、地域の行事等)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・ 文科省選定作品、国際理解のためのVTR「世界の果ての通学路」
- ・ 開発教育協会等の教材

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

本校では、各教科の日々の授業でもESDの概念（「6つの構成概念」と「7つの能力・態度」）を取り入れている。この指針は、平成28年3月に文部科学省国際統括官付日本ユネスコ国内委員会より示された「ESD推進の手引き」に記載されているもので、本校で行う授業についての指導案を作成する際も掲載することとしている。なお、各教科・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画においては、年度当初からESDの活動をあらかじめ設定している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

本校においてはE S Dを学校研究課題として設定し、学期ごとに主幹教諭、研修主任を中心とした学校課題推進委員会を開催し、E S Dの取り組み状況や次年度に向けての課題について確認を行っている。また、多くの職員が入れ替わる年度当初においては、4月第1週にE S Dにおける研修を、外部講師を招いて実施している。これによって、4～5月に実施する「世界一大きな授業」に、全職員が共通理解のもと、取り組むことができるものと期待される。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

先に述べた学校課題推進委員会で評価を行っている。今年度は、担当教員や使用する教材・指導案の活用について、より一層明確にすることが課題として挙げられた。また、職員対象の研修も計画的に実践し、E S Dに対する理解を深めることも挙げられている。

- ⑤ E S Dの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

平成27・28年度は、さいたま市教育委員会の移植を受け、「持続可能な社会の担い手としての自覚を持った生徒の育成 ～地球規模で考え、足元から行動～」を研究主題とした研究を推進、昨年度発表を行った。今年度も引き続きさいたま市教育委員会を通じて情報発信を行うとともに、「服のチカラプロジェクト」も近隣の小・中学校と連携しながら推進、他行や地域にE S Dの理念を紹介している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、E S D活動支援センター、E S Dコンソーシアムとの連携など）

さいたま市で行っている「夢工房 未来（みら）くる先生 ふれ愛推進事業」として、本校の職員の校内E S D研修の講師でもある拓殖大学国際学部の石川一善先生を招き、「E S Dってなんだろう」というテーマで講演していただき、中学生にもわかりやすくE S Dを学ぶ機会を作っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

昨年8月6日に佐々木祐滋氏（原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんの甥）がユタ州の博物館にサダコの鶴を寄贈する際に、350万羽の折り鶴を合わせて寄贈する「折りづるプロジェクト」に参加した。今後もユネスコスクール公式webサイトを中心に活動内容を決定、近隣の学校とともに参加していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

本校では、教職員がESDについていろいろな機会を通し「一人ができること、その力は小さいが、何もしなければ何も始まらない。まず自分にできる小さなことを始めること、それがすべての始まりになる。踏み出した小さな一歩が、ユネスコスクールとして世界につながっており、未来を変える可能性がある。そうした視点を持って、毎日生活していったほしい。」という意識を共有し、折に触れ生徒に話している。

（３）平成３０年度の活動計画

１・ねらい

- (1) アクティブラーニング・参加型学習を柱とする実践。(主体的で対話的な深い学び)
- (2) 生徒の自発的、自主的な活動の推進
- (3) 自己肯定感、自己有用感の醸成

２・校内研修 ※研修を年３回確保する。

- ・年度当初：教職員向け(教員による)
- ・２回目(４月頃)：石川先生による講演
- ・３回目：次年度に向けて

※学校課題推進委員会 → 年に３回(５月・１１月・２月)

○常に「ESD」の取組を発信する。(起案文書や行事にもESDを入れる等)

３・組織の役割

学校課題推進委員＝メンバーにESD担当者を含める(+必要に応じて生徒会担当)

※学校課題推進委員は、各学年のESDの取り組みの中心となる。

※生徒会担当者は、ユネスコスクールとしての取組の中心となる。

※学校課題推進委員は、総合的な学習の時間の担当者と連携する。

４・年間計画(平成30年度)

(1) 国際理解・多文化共生

時期 / 学年	１年生	２年生	３年生	担当
４月				１年部
５月・人プロ	世界一	世界の果て		２年部
７月	ユニクロ			１年部
９月	開発協会 ＜食育＞	開発協会 ＜バーン村＞	開発協会 ＜難民＞	各学年 ＜＞は単元
１１月			留学生が先生	３年部
１２月		新聞記者		２年部
１２月	１００人村			１年部

★教育課程の位置づけ

１年 ※世界一：(総合) ※ユニクロ：(総合) ※１００人村：(総合)

２年 ※世界の果て：(道徳) ※新聞記者：(国語・NIE)

３年 ※留学生：(社会)

(2) 地域・環境・人権

時期 / 学年	１年生	２年生	３年生	担当
６月		ディレクトフォース		２年部

10月	健康講座	健康講座	健康講座	保健指導
10月	服プロ	服プロ	服プロ	生徒会 ⑥
11月			五反田 合唱	3年部
11月	子どもまつり	子どもまつり	子どもまつり	地域コーディネ
11月	人権講演会	人権講演会	人権講演会	人権担当
2月	未来くるワーク			1年部

★教育課程の位置づけ

全学年※健康講座:保健(保体) ※人権講演会:人権担当(道德)

1年 ※未来くるワーク:行事

2年 ※ディレクトフォース:(理科)

(3)その他

担当	国際理解 多文化共生	地域・環境 人権		その他
生徒会		服プロ	JICA	
教頭		五反田会館合唱	敬老会	